

ちくちく通信

2012年冬



発行：ちくちくの会 (<http://chiku-chikunokai.jimdo.com/>)

平成24年1月現在
会員42名で活動しています。

16件の医療機関さまにお洋服・
型紙を寄付しています
(9月比 会員+8名、寄付先+2件)

**特集：よい広くみなさんに活動を知ってもらうために
～日本母性衛生学会 と 赤ちゃん・こどもの死を考える会 への参加報告～**

日本母性衛生学会（平成23年9月29日30日 京都）

ちくちくの会から、ブース展示をしました。会員さんがブース前に立ってご意見を伺ったり、会の内容について説明しました。長時間、お疲れさまでした。

(いただいたご質問)

Q. 活動に決まった場所はあるの？

A. 毎回決まってはいません。HPに、交流会の日時や場所など随時アップしていますので、ご覧ください

Q. 寄付の受付はしていますか？

A. 現在のところ、寄付は受け付けておりません。詳しくは、HPをご覧ください

(いただいたご意見など)

お洋服もかわいいですが、お帽子もいいですね。とてもかわいいです。

お洋服が着せやすく、いいと思います。

イギリスではこういうケアは当たり前で、おくるみ的なものを使っていますよ

赤ちゃんをお見送りするときの棺となる箱がなかなかないんですよ・・・



昔は身近にあった「死」が、今は遠ざかっているのかもしれないね・・・

今までは葬祭業者に頼んで一枚いくらでベビー服を用意してもらっていました。

第9回 あかちゃん こどもの死を考えるセミナー

(2011年10月23日(日) 京都大学芝欄会館)

昨年に続いての参加です。今回のセミナーは、赤ちゃんのロスケアについてのセミナーというだけあっていふんとブースには来てくれる方が多かったようです。

今回、多くの病院さんから、院内で講演や勉強会に出席してもらえないかという打診がありました。これは相互理解の為には大変すばらしい事だと思っています。ですが、こちら側の準備が必要なこともありますので、今後、検討していきたいと思っています。

参加した会員さんからの感想です ⇒



今回参加してみて、ロスケアも含めてですが、小さなお洋服についても私達体験者と医療者側の温度差がまだまだあるのかなと思いました。

実際、とても熱心に心をくわいてロスケアに取り組んでくれている病院や助産師さんも多くいるのだけれど、やはりまだまだ「こんなものがあるのね」程度の関心しか持ってもらえていない雰囲気も感じました。

今後、私たちがより活動を広めていく中で、より活動を身近に感じていただけるように、工夫していきたいと思っています。

そのためにも、ぜひ医療機関のみなさまにはサンプルなどお渡しした後に勉強会など行われた際には、ご意見やご感想などのレスポンスをいただければ幸いです。



「ちくちくの会が出展してると知ったのでセミナー来ました」と言ってくださった体験者の方もいらして、感動。ありがとうございました。



天使ママからの声（第3回）

ちくちくの会で活動されている天使ママは、1人の女性として、妻として、母として、職業人・社会人としてそれぞれの立場で頑張っています。今回は、おふたりの天使を思いつつ、新たなステージで頑張っているママさんから寄せていただいた声をご紹介します。

私は、2009年の夏の終わりに常位胎盤早期剥離を発症し、天使ママとなりました。その日から、暗闇の中で過ごす日々が始まりました。いつしか、いろんな気持ちを誰かに話したいと思うようになり、ネットで自分と同じ境遇の方のブログなどを見、そこで天使ママ達と出会いました。

みんな、辛いなりに前を向いて歩いて行こうとする気持ちに勇気づけられ、私も少しずつ歩いてみようと思うようになりました。



その頃、天使ママさんを介して、《ちくちくの会》があるのを知りました。

裁縫は得意ではなく、初心者でしたが、その頃はとにかく自分に出来る事を何でもいいのだったと思っていて時期だったので、参加する事にしました。実際作ってみると、枚数を重ねるごとにコツが分かり、なんとか人にお見せできる形になっていきました。製作中、なんだか温かい気持ちになり、それが心地よかったので、当時、沢山作ったように思います。

翌年の春に、第2子を妊娠してるのが分かり、すぐに不育症の治療を開始しました。残念ながら、流産してしまいましたが、どうしても子供が欲しかったので、もう一度がんばってみようと思ってた矢先…
今度は主人が急性骨髄性白血病を発症しました。

白血病の治療はすごく長い期間を要し、治療内容も過酷でした。出来るだけ主人の傍で、一緒に戦いたかったので、毎日病室に通い一緒に過ごしました。その時、私には沢山の時間があったので、介護の合間でちくちくの会のお洋服を作ったり、刺繍をしたりして、気を紛らわさせていました。お蔭様で、昨年、主人は無事骨髄移植を終え、今は自宅療養しています。経過も順調で、沢山のパワーを送っていただいた天使ママさん達に感謝しています。

そして、あの時にちくちくしていた事が、いつの間にか技術として私の身に付いていたようで、今ではすっかり手芸が得意になり、昨年の6月末に刺繍作家として歩み始めるようにまくなりました。

こうして、主婦業と本業と作家業の3足のわらじを履くようになり、とても忙しいですが、すごく充実した毎日を送れています。

私達夫婦は、見た目、子供が居ない夫婦です。

1年前までは、そういう状況を受け入れる事が出来ず、どうしても子供が欲しいという思いが強く、子供が居ない生活は考えられませんでした。今は、ようやく全てを受け入れ、こういう夫婦もまんざら悪くないな・・・と思えるようになりました。このように考えられるようになったのも、時間と、傍でそっと見守ってくれた天使ママさん達のお蔭だと思っています。

そして、主人の闘病を支えている内に、お世話になったちくちくの会に何かしたいと思う気持ちが出てきました。そこで、私と主人がお世話になっている病院に、ちくちくの会のお話しをしてみる事にしました。スムーズに話しが進み、去年の8月にお洋服第一号を提供する事が出来、やっと少しだけお返しをする事ができたと思っています。



息子から繋がって出来た縁で、沢山の方に出会い大きな輪が出来ました。これからはこの出会いを大事に育てていきたいと思っています。

今は、作家活動ありがたい事に順調で、なかなか思うようにちくちくする時間が取れず、しばらくお休みしてる状態です。「ゆっくり歩く人は沢山遠くに行く」という言葉のある方のブログで見つけました。作家活動も、ちくちくの会の活動も、そうでありたいと思える言葉でした。

きっと、またゆっくりと製作に掛かれる時間が来ると思っています。その時に、ちくちく出来たらそれでいいと思っています。これからも、ゆっくりと、長く続けていきたいです。

編集後記

今年は、例年以上に寒い日々が続きますね。
みなさん、風邪などひかれず、お体大切になさっていますか？
いつも、ちくちく通信をご覧いただきまして、ありがとうございます。先日、ちいさなお洋服を送ってくださった会員さんから「きっと娘の花嫁衣裳を作るのはこんな気持ちだと思って作りました」とお手紙をいただきました。そんな大切な心を寄せていただいたお洋服が、悲しい思いをしたお母さんの心を癒すことが出来ますよう、今後ともみなさんのご尽力をお願いできればと思います。よろしく願いいたします。
(運営委員)

